

会 議 録

1 会議名

上越市都市再生整備計画評価委員会

2 議題（公開）

直江津地区（都市再構築戦略事業）の事後評価について

3 開催日時

令和2年2月25日（火）午前9時00分～午前11時00分

4 開催場所

上越市役所4階 401会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：佐野可寸志、村中祐治、新保良勝、板垣朗、須藤和子
- ・ 事務局：都市整備課：石澤副課長、北島係長、井口主任
企画政策課：阿部参事、石崎係長、杉田主事
文化振興課：松永係長
危機管理課：青柳係長
北部まちづくりセンター：小池係長
保育課：小山副課長、丸山係長
商業・中心市街地活性化推進室：竹内係長、吉村主任
施設経営管理室：丸田副室長
道路課：唐澤係長
教育総務課：力久係長
都市整備課：小林係長
委託業者：国際航業(株) 3名

8 発言の内容

(1) 開会

(2) 委員紹介、委嘱状交付

波塚都市整備部長から委員へ委嘱状を手交

(3) 都市整備部長挨拶

本日はお忙しい中、上越市都市再生整備計画評価委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、皆様には委員の委嘱をお願いいたしましたところご快諾いただき、心から感謝申し上げます。

本日の議題は、都市再生整備計画直江津地区の事後評価についてでございます。直江津地区は、当市の鉄道結節点として、また玄関口として拠点性の高い地域でございましたが、新幹線新駅の開業や交流人口の減少に伴い、まちとしての求心力の低下が懸念されております。

この計画では、新水族博物館の整備を契機に、周辺施設の整備や民間事業者の導入などからなる新たな事業を立ち上げ、新水族博物館に来館したお客様のまちなか回遊など、拠点施設の波及効果や保育園、公園の整備による住宅地としての魅力の向上などによりまちの求心力を高め、賑わいの再生を目指して取り組みを進めてまいりました。

本日は、皆様から本計画の事後評価についてご審議いただくことになっております。委員の皆様からは忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、本日お集まりの委員の皆様からは上越のまちづくりに対して、一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げまして、簡単ではございますが、開会のご挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしく願いいたします。

(4) 委員長選出

委員の互選により、委員長に佐野委員を選出

(委員長あいさつ)

長岡技術科学大学の佐野と申します。せん越ながら、委員長を務めさせていただきます。よろしく願いいたします。

(5) 都市再生整備計画及び事後評価制度の概要説明

石澤副課長： それでは、議題に入ります前に、都市再生整備計画及び事後評価制度の概要について、事務局より説明させていただきます。

井口主任： <都市再生整備計画及び事後評価制度の概要について説明>

石澤副課長： ただ今の説明について、ご質問がありましたらお願いします。

<質問なし>

(6) 議事

直江津地区都市再生整備計画（都市再構築戦略事業）の事後評価について

佐野委員長： それでは、「直江津地区 都市再生整備計画（都市再構築戦略事業）の事後評価について」の議事に入りたいと思います。

まず始めに、評価委員会説明資料「2. 直江津地区の計画概要」について説明をお願いします。

石崎係長： <直江津地区の計画概要について説明>

佐野委員長： ただ今の説明について、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

<質問なし>

続きまして、「3. 直江津地区の事業概要」、「4. 審議事項」について、あわせて説明をお願いします。

石崎係長： <直江津地区の事業及び成果の概要、審議事項について説明>

佐野委員長： ただ今の説明について、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

新保委員： 私から2点、確認させていただきたいと思います。1点目は、当初設定されていた目標3つの他に、追加指標として2つ設定されており、その追加指標の2つ目を見ると、休日の自動車交通量が測定されております。なぜ、休日を測定日としているのでしょうか。何かお考えがあつてのことでしょうか。なぜ、測定日に平日を含めていないのでしょうか。

2点目ですが、水族博物館へ多くの方が来訪されておりますが、その来訪者をいかに中心市街地に引き込むことができるかが課題であると考えます。説明資料の37ページの改善する事項に記載されている、まちなかへの回遊の促進では、今後できる運転免許センターの来訪者をまちなかへ誘導するとあります。このまちなかへ誘導するという部分について、水族博物館への来訪者も含めてはどうでしょうか。以上、2点のお考えをお聞かせください。

石崎係長： 1点目の、なぜ測定日を休日としているかについてお答えします。水族博物館は、休日に来られる方が主となることから、水族博物館に来訪された方がまちなかを訪れていることに焦点を当てて効果を見るために測定は休日といたしました。

2点目のまちなかへの回遊促進につきましては、水族博物館への来訪者も視野に入れて今後の改善策を考えていきたいと思えます。

佐野委員長： 休日と平日では、一日当たりどのくらい利用者が違いますか。

力久係長： 入館者数は、時期によって違いますが、休日と平日では大きな時で一日当たり10倍くらい違います。

佐野委員長： 指標が3つあり、水族博物館は予想以上の成功で、残りの2つが今一つということですが、計画時に目標値を設定するときには、その目標値とした根拠があると思いますが、その根拠のどこが違ったのか教えてください。

石崎係長： 中心市街地の歩行者数を設定する際は、平成 24 年度から 25 年度において、60 人程度の増加が見られたため、その 60 人をベースとして目標値を考えました。まず、最初の 2 年間は、効果の発現が顕著には現れないと考え、60 人程度の歩行者数の増加が継続すると想定し、平成 27 年度は 2 年分の歩行者数を足して 3000 人になると見込みました。平成 28 年度からは事業効果が出始めると想定し、60 人の 1.5 倍である 90 人の増加を見込み、平成 29 年度の歩行者数を 3180 人としました。また、最終年度である 30 年度は、平成 29 年度末にオープンを予定していた水族博物館へ多くの来館者が見込まれることから、90 人の約 10 倍近い 870 人の増加を想定し、目標値として 4050 人を設定いたしました。

水族博物館への来館者が多いにも関わらず、中心市街地の歩行者数は減少したという結果から、歩行者数はまちの賑わいには反映されなかったという点が目論見と違いました。

また、居住人口につきましては、計画策定時も減少傾向にあり、事業実施によってすぐさま増加に転ずるのは難しいと見込んでおりました。そのような中で、事業を実施することによって従前値である 6912 人が維持されると想定し、最終年度である 30 年度については、多くの事業が計画期間の後半で完了することを考慮するとともに事業効果を加味して、目標値を微増の 6950 人と設定いたしました。事業実施により、人口減少にすぐさま効果を発揮することにはならなかった点が目論見と違いました。

佐野委員長： 資料の説明を聞いていて気になるのが、説明の中で出てきた歩行者数はあまり指標として好ましくないという部分です。地方都市では、車で移動することは十分予想できたはずですが、それをあえて指標として掲げていたのだと思いますが、回遊促進のために歩いてもらうという考えはギブアップしたということでしょうか。

石崎係長： その点につきましては、今後マンション等の複合施設が整備され、テナントとして運転免許センターが入ると免許を新たに取られる方も多くいらっしゃると思います。その場合、車ではなく公共交通機関等を利用される方も見込まれます。今後は、公共交通機関等

を利用される方もまちなかに誘導し、歩行者の回遊をはかりたいと考えております。

佐野委員長： 指標を設定した計画策定時にはなかった免許センターへの来訪者数を、歩行者数に上乘せするという考え方には少し違和感があります。水族博物館からまちが遠い場合は、来訪者をまちなかへ回遊させるのは無理なのではないでしょうか。歩行者数は、中心市街地のにぎわいを測る指標として好ましくないとせず、歩行者数を増加させるために努力しなくてもよいのでしょうか。例えば、水族博物館やまちなかの駐車場は、どのような料金体系でしょうか。

阿部参事： まちなかの駐車場は基本的には有料ですが、店舗によっては無料の駐車場を設置しているところもあります。

歩行者数の増加に関しては、あきらめたということではありません。まちの活性化の一つの在り方として、あきらめていない状況です。実態としては、1、2店の人気のある個店に来客が集中している状況です。そのため、お店の駐車場に駐車して、それで個店に入るといった状況が現状ですが、将来的な姿としては、魅力的なお店が複数できることがまちの回遊につながっていくと考えています。

段階としては、まずは、まちなかに来ていただく、次の段階として、複数のお店に寄ってもらい結果的に歩行者数が増えるという形が好ましいと考えています。最初から最終形ではなく、段階的な目標設定が必要であると考えています。

佐野委員長： 水族博物館の駐車場は、どのような料金になっているのでしょうか。

阿部参事： 無料です。

須藤委員： 旧直江津銀行の利用についてですが、イベントが多く行われていますが、この場合の駐車場や施設の利用料はどのようになっていますか。管理は市ですか、それとも、まちなかで事業をしている人ですか。

松永係長： 現ライオン像のある館ですが、施設の使用料は無料となっております。駐車場についてですが、現ライオン像のある館には残念ながら駐車場はございません。そのため、船見公園の駐車場をご利用いただいております。また、船見公園の駐車場料金は無料となっております。利用状況といたしましては、音楽イベントや展示会にご利用いただいております。

村中委員： 最後の目標のところと、当初の目標で「北陸新幹線開業の効果を生かす」ということを掲げていますが、課題でも「北陸新幹線開業を見据えた交流拠点としての機能強化」があがっています。当初、掲げた目標に対して取り組まれたことと思いますが、北陸新幹線の開業効果を分析されておりましたらご説明いただくと、どのように直江津駅の乗降客数が変化したのかを教えてください。

阿部参事： 直江津駅の乗降客数ですが、新幹線開業に伴い減少しております。新幹線開業を見据えたということですが、現実的には、今回の事業の核である水族博物館に関しては、85%以上は車で来ているという状況であり、新幹線の開業効果というのは、現在、あまり出ていないと考えております。しかしながら、最近では、広域的な移動として増加しているのが外国人の方々です。東京や北陸からの外国人の方々の来訪が、今後増加することについて少し期待しております。

佐野委員長： そこを期待するのであれば、外国人の方々が来訪しやすい仕組みを考える必要があると思います。

須藤委員： 屋台会館ですが、今も屋台を展示しているのでしょうか。それとも、休憩ができるようになっているのでしょうか。

丸田副室長： 屋台会館ですが、現在、町内の21の屋台を格納しており展示はしておりません。そのため、現在は屋台を展示していたスペースを希望者に貸し出ししております。

佐野委員長： 板垣委員からは「事後評価シートにより各事業の評価が公正になされ、今後の方策についても的確に定めているということを確認しました。」というご意見をいただいております。

それでは、一通り意見も出たようですので、事後評価の手続きの妥当性及び今後のまちづくりについて確認します。

事後評価の手続きが適切に進められ、今後のまちづくりについて適切に検討されていると評価してよろしいでしょうか。

全委員： 異議なし

佐野委員長： 事後評価の手続き及び今後のまちづくりについて適切であると確認いたしました。

事務局においては、本日の評価委員会での意見を踏まえたうえで、今後の事後評価手続きに遺漏のないようお願いします。

以上で本日の議事は終了いたしましたので、議長の任を解かせていただきます。

(7) 委員会後のスケジュール

石澤副課長： ありがとうございます。

それでは、委員会後のスケジュールについてご説明いたします。

本日ご審議いただきましたことを踏まえて、事後評価シートを修正し、3月末頃、国に提出させていただきます。その後、事後評価シートの確定版を委員の皆様へ送付するとともに、ホームページ等を通じて広く市民の皆様へ公表したいと考えております。

ただ今の説明について、ご質問がありましたらお願いします。

<質問なし>

(8) 閉会

石澤副課長： それでは、以上をもちまして、上越市都市再生整備計画評価委員会を閉会いたします。

本日は、長時間に渡るご審議、大変ありがとうございました。

9 問合せ先

○会の運営に関すること

都市整備部都市整備課 市街地整備係

TEL : 025-526-5111 (内線 1382)

E-mail : toshiseibi@city.joetsu.lg.jp

○議案内容に関すること

企画政策部企画政策課 企画調整係

TEL : 025-526-5111 (内線 1852)

E-mail : kikaku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。